学習指導要領の改訂に伴い「評価の観点」が変わります

中学校では令和3年度から
（小学校は令和2年度から）

○「指導と評価の一体化」に向け、学習評価の目的を再確認しましょう　→ ① 学習評価とは?

○新しい評価の観点の内容や評価方法について確認しましょう　→ ② 新しい「評価の観点」って?

○新しく示された「主体的に学習に取り組む態度」については特に留意しましょう　→ ③ 主体的に学習に取り組む態度の評価って?

① 学習評価とは？

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものです。
学習評価を行うにあたっては、
・「生徒にどういった力が身に付いたか」を的確に捉え、指導の改善を図る
・生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする
ことが大切です。

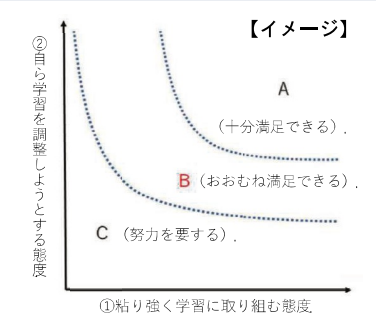
「学習評価」と聞いて、こんなイメージはありませんか？

評定等の成績を付けるためだけの評価に終わることなく、生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることで、自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるようにすることが大切です。

兵庫県教育委員会

③ 主体的に学習に取り組む態度の評価って？

主体的に学習に取り組む態度では、
① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強く学習に取り組む態度
② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする態度
という二つの側面を評価することが求められます。



○ ①②は、相互に関わり合いながら現れることもあるため、実際の評価の場面においては、双方の側面を一体的に見取ることも想定されます。

○「自ら学習を調整しようとする側面」とは、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。

授業においては、
①児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問をする
②自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設ける
等の工夫が求められます。

主体的に学習に取り組む態度の評価場面（例）

新たに知った言葉を紹介する～聞き手を意識して話す～（中学校国語 第1学年）
「主体的に学習に取り組む態度」が表れている姿を
練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように選んだ言葉を紹介しようとしている姿
と設定

粘り強さ
スピーチ練習を繰り返して表現を考えたり修正を加えたりしている
【スピーチ練習の姿】

自らの学習の調整
表現の修正を行いながら発表会に間に合うようにスピーチを整えようとしている
【ワークシート】

Point
単元を構想する際に、評価場面や生徒の姿を具体的にイメージしておくことが大切です

02教T2-003A3

②　新しい「評価の観点」って？

学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されました。

知識・技能

知識及び技能の習得状況に加え、それらを既有の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価するものです。

【評価方法の工夫例】
・事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮したペーパーテストの工夫改善
・文章による説明、式やグラフでの表現、観察・実験など、実際に知識や技能を用いる場面の設定　等

思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価するものです。

【評価方法の工夫例】
ペーパーテスト、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現、それらを集めたポートフォリオの活用　等

主体的に学習に取り組む態度

知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要です。　※詳細は裏面

【評価方法の工夫例】
ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教員による行動観察、生徒による自己評価や相互評価　等

Point
ペーパーテストだけでなく、授業中の発表・話し合いといった生徒の姿や、レポートなど、多面的・多角的な評価が大切！

3 つの「評価の観点」は関連し合っています！

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、知識及び技能を習得させたり、思考力、判断力、表現力等を育成したりする場面に関わって行います。

その学習評価の結果を、教員の指導や生徒の学習の改善にも生かすことによりバランスのとれた資質・能力の育成を図るという視点が重要です。

Point
単元の導入段階や途中で、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について学習状況にばらつきが見られる場合には、生徒の実態や教員の授業の在り方などそのばらつきの原因を検討し、***必要に応じて、生徒への支援を行い、生徒の学習や教員の指導の改善を図る***など速やかな対応が求められます。

このことから

単元末や学期末、学年末の結果として算出された評価の結果について、原則、***「CCA」や「AAC」といった大きな差は生じない***ものと考えられます。